



基本計画

## 第3章

# 活気にあふれる多様な 産業と交流のまちづくり

- 第1節 農林業の振興
- 第2節 工業の振興
- 第3節 企業誘致の推進
- 第4節 商業の振興
- 第5節 観光の振興

## 第1節 農林業の振興

### まちづくりの現状

- 宮若市の主要産業でもある農業は、販売農家数が855戸（平成22年度農林業センサス）となっており、農業従事者の減少と高齢化が進んでいます。
- 宮若市の主要な農産物は、米、トルコギキョウを始めとする<sup>かき</sup>花卉、ぶどう、イチゴなどが挙げられますが、消費需要の低迷、輸入農産物の市場参入などから農産物価格の低迷が続き、農業経営は厳しさを増しています。
- 近年、安全・安心な食に対する関心が高まる中、減農薬米\*である「わざあり米」の生産などに取り組んでいます。また、学校給食や地元企業などを通じた地産地消を推進することで、市民が地域農業の大切さを理解する取組が進められています。
- 持続して収益力のある農業振興を進めるため、各種特産品の開発が進められています。また、ドリームホープ若宮、四季菜館などが新鮮な地元産物の直売拠点として多くの消費者の評価を得ています。
- 市民意識調査では、「食の安全・安心」「宮若産の農産物の買いやすさや種類などの状況」「みやわかブランド（特産品）の魅力」に対する現状の満足度は高い結果となっています。また、これからの産業振興の重要項目としては「農業担い手の育成確保」が最も高くなっています。

### 前期基本計画における成果・課題

#### 農林業の生産基盤の整備

- ☺平成19年度より開始した、農地・水保全管理支払交付金事業\*に取り組み、地域住民と農業者が一体となった地域ぐるみでの農道整備や草刈り、用水路の維持管理などの取組を推進しています。
- ☺営農に必要な施設を国、県の補助金を活用して整備し、地域農業の生産力と収益性の向上に努めています。
- ☺課題となっている有害鳥獣対策として、猟友会による有害鳥獣駆除の実施、箱わなの貸出しによる捕獲を実施しています。
- ☹農業従事者の高齢化に伴い、維持管理が困難な農地が発生しており、耕作放棄地対策が課題です。

#### 農林業の経営基盤の強化、担い手の育成・確保

- ☺認定農業者\*の育成のため、認定農業者連絡協議会による定期的な会議を開催し、販路拡大に向け認定農業者マップを作成しました。
- ☺水田農業担い手機械導入支援事業\*を活用し、農業者への機械導入を行うとともに、水田農業経営力強化事業\*により農業経営アドバイザーを派遣し、経営指導や税務、法人化などの研修を実施しました。
- ☹効率的な農業経営を推進するため、引き続き、担い手農家などへの更なる農地集積や土地利用の効率化を図るための団地化が必要となります。
- ☹新規就農支援をアドバイザー派遣により実施していますが、耕作する農地の確保が課題となっています。

#### 特産品のブランド化・普及促進

- ☺宮若産の原材料を使用した米焼酎「若造」と芋焼酎「宮姫」、宮若米、果実などのPRに取り組んできました。
- ☺特産品の販路拡大を図るため、認定農業者や直売所によるインターネット販売を推進しています。また、福岡市で農産物の展示販売を実施するなどのPR活動を行いました。

#### 地産地消の推進

- ☺学校給食では、米はJA直轄産を使用し、農産物も市内農家より可能な範囲で調達しています。また、JA直轄と連携して、地元で採れた野菜を学校給食に提供する取組が実施されました。

#### 農業観光振興センター\*の整備

- ☹農業観光振興センターの整備については、基本方針策定のための基礎データを基に、宮若市の農業や観光の振興に効果的な施設整備について調査、研究を進めてきましたが、具体的な施設整備には至ってない状況です。

## 後期基本計画における主要な課題

## 課題1

担い手となる就農者の育成を中心とした持続できる農業経営基盤の強化が必要です。

農業従事者の高齢化による担い手不足を解消するため、就農支援などによる就農者の育成、確保と担い手農家などによる農業経営基盤の強化が必要です。

## 課題2

付加価値の高い特産品などの開発、農産物の販路拡大による収益力向上が必要です。

安定した収益を確保していくため、農商工が連携し、付加価値の高い特産品などの開発を進めるとともに、既存の直売施設などを中心に地元産品の流通販売ルートの拡大が必要です。

## 課題3

農地・森林の荒廃を防ぐ生産基盤の整備・維持管理が必要です。

耕作放棄地など、維持管理が困難な農地を有効活用するため、基盤整備を進めるとともに、担い手農家などによる農地集積、地域ぐるみでの環境保全活動が必要となります。また、森林の持つ多様な機能と役割を再度認識し、森林を維持するための取組が必要です。

## 課題4

地域の農業を守り、育てるまちづくりが必要です。

地産地消を推進することで、農業の大切さを市民が理解し、地域の農業を守り、育てるまちづくりを進めていく必要があります。

## 課題5

農業と観光がふれあい、特産品などの販売拠点となる施設の整備が必要です。

多様な農産物による地域の豊かな特産品を生かして、観光客を効果的に誘客し、観光情報の発信基地となる特産品などの販売拠点施設の整備が必要です。

## 基本方針

◎農林業の充実を図るため、生産・経営基盤の強化を推進し、豊かな農産物の恵みを楽しむまちづくりを目指します。

## 後期基本計画での主要事業

## 課題1

## 事業1

## 就農者の育成・確保、農業経営基盤の強化

事業名	事業の内容	担当課
①認定農業者を核とした就農支援体制の確立	新規就農者の育成から就農に向けた支援活動を充実させるため、受け皿となる認定農業者を核とする推進体制を確立します。	農政課
②就農希望者の支援	青年就農給付金*を活用して、就農意欲の喚起と就農後の定着を図るとともに、新規就農者が就農するために必要な農地確保などの環境づくりを進めます。	農政課 農業委員会
③新たな就農者の誘致	就農に関心のある人を誘致し、新たな担い手を確保するため、体験農業などを実施し、新規就農者への情報発信と参加機会の拡充を進めます。	農政課
◎重点 ④認定農業者・地域集落営農組織の育成	農業の担い手が減少する中で地域農業を維持していくため、認定農業者や集落営農組織などの育成による農業経営を推進します。	農政課
⑤担い手農家等による効率的な農業経営の推進	国、県の補助事業を活用し、担い手農家などへの農地集積、農業機械の導入などによる効率的な農業経営を支援します。	農政課

## 課題2

## 事業2

## 農産物の収益力の向上

事業名	事業の内容	担当課
◎重点 ①特産品の開発・生産体制の確立	農商工連携による、市場ニーズを捉えた特産品の開発を進めるとともに、本格的な生産へつなぐ体制づくりを進めます。	農政課 産業観光課
◎重点 ②農産物等の情報発信・販路拡大	ドリームホープ若宮、四季菜館などの地元農産物の直販拠点と観光との連携を強化するとともに、インターネットなどを活用した販路拡大を図ります。	農政課

**課題3 事業3 農林業の生産基盤の維持・強化**

事業名	事業の内容	担当課
①生産基盤の整備	県などとの連携により農道、用排水路の維持管理を進めます。	農政課
②耕作放棄地対策の推進	中山間地などでの耕作放棄地の抑制に向けた活動支援を図るとともに、遊休地となった農地の有効活用策を検討します。	農政課 農業委員会
③地域ぐるみによる農地保全活動の充実	地域住民と農業者が連携し、農地及び農業施設の環境保全に関する取組を推進します。	農政課
④有害鳥獣被害対策の推進	有害鳥獣被害を防止するため、猟友会の活動支援及び直轄地域鳥獣被害防止対策協議会による防止施設の整備、宗像市外2市1町有害鳥獣対策広域連絡協議会による加工処理施設の活用などによる対策に取り組みます。	農政課
⑤荒廃森林の再生 (※第1章第5節に掲げる事業と同一の事業)	森林環境税を原資とする荒廃森林再生事業*により、荒廃森林の現況調査及び間伐、枝打ちを実施し、荒廃森林の再生に努めます。	農政課

**課題4 事業4 農業を守り、育てるまちづくりの推進**

事業名	事業の内容	担当課
①地産地消の推進	学校給食や地元企業への新鮮で安全な地元農産物の提供を継続するとともに、農産物直販拠点を通じた地産地消活動を推進します。	農政課 学校給食課
②交流型農業の推進	体験農園など、農業を生かした交流活動を推進します。	農政課

**課題5 事業5 特産品等の販売拠点となる施設の整備**

事業名	事業の内容	担当課
◎重点 ①特産品等の販売促進施設の整備	市内直売所や観光協会と連携を図りながら、農産物・特産品販売と観光情報発信の拠点となる、特産品等の販売促進施設整備を推進します。	農政課 産業観光課

**目標指標（成果指標／活動指標）**

No.	目標指標	現状値	目標値	担当課
1	認定農業者数	平成23年度 42人	平成29年度 50人	農政課

**計画事業**

No.	事業名	着手年度	達成年度	担当課
1	農地・水保全管理支払交付金事業	平成19年度	平成28年度	農政課
2	中山間地域等直接支払交付金事業	平成17年度	平成26年度	農政課
3	特産品等の販売促進施設の整備	平成23年度	平成27年度	農政課 産業観光課



地域による農業環境保全活動



小原あじさいロード

## 第2節 工業の振興

### まちづくりの現状

- 宮若市は、自動車産業を中心に市内には61の製造事業所（平成22年工業統計調査）があり、製造品出荷額は約9,132億円（同調査）をあげる県内有数の工業地となっています。
- 企業と地域社会との交流として、笠松地域など、地域と企業が共生できる生活空間づくりを目的に、環境美化活動や各イベントを実施しています。
- 市民意識調査では、今後、重点的に取り組むべきテーマとして「雇用対策」が最も高くなっています。

### 前期基本計画における成果・課題

#### 中小企業の育成

- ☺ 商工会議所、商工会などの関係機関との連携により、緊急経済対策、セーフティネットなど各種融資制度の利活用に努めています。
- ☺ 中小企業による新分野進出や新製品開発を推進するため、関係機関と連携し、産学官\*交流による企業の育成に努めています。

#### 企業と地域社会との交流の推進

- ☺ 企業と連携し、市公共施設などの清掃作業や補修作業の実施を通して交流を図り、相互に理解を深める取組を進めてきました。
- ☺ 笠松地域などでは、地域と企業が環境美化活動やイベント実施を通して協働意識の醸成を図っています。
- ☺ ふるさと祭やスポーツフェスタなどの催しに、企業の参加を求め、地域社会との融和を促進しています。

### 後期基本計画における主要な課題

#### 課題1

地域雇用を支える企業の育成・支援が必要です。

宮若市の経済が持続して成長していくためには、安定した雇用の確保は重要な課題であることから、雇用環境を将来にわたって安定させるための地元企業の経営基盤の強化、技術開発など新たな分野への進出に向けた支援が必要です。

#### 課題2

工業の振興に向けた産学官\*の連携・交流が必要です。

市内企業の発展に資するため、企業間、産学官の連携・交流を拡大し、技術開発、人材育成を強化する取組が必要です。

#### 課題3

企業と地域社会が融和したまちづくりが必要です。

これまで実施されてきた環境美化活動や地域イベントへの企業参加などをさらに充実し、企業と地域社会が融和したまちづくりが必要です。

### 基本方針

- ◎ 企業活動の育成・支援を進め、新産業の創出と地域の雇用を支える工業の振興に努めます。

## 後期基本計画での主要事業

## 課題1 事業1 中小企業の育成・支援

事業名	事業の内容	担当課
①中小企業の経営支援	商工会議所、商工会などの関係機関との連携により、各種相談窓口を充実し、市内中小企業へ各種融資制度などの周知を図ることで、企業活動の支援を進めます。	産業観光課

## 課題2 事業2 産業間交流の推進

事業名	事業の内容	担当課
①産学官連携の推進	地元企業の技術開発などを円滑に進めるため、関係機関と連携し、企業活動を支援します。	産業観光課
②企業間交流の推進	既存の経済団体や企業活動を支援し、多様な企業間のネットワーク化を推進します。	産業観光課

## 課題3 事業3 企業と地域社会との交流の推進

事業名	事業の内容	担当課
①地域活動への企業参加の促進	これまで実施してきた環境美化活動や地域イベントへの企業参加を促進するとともに、地域活動での市民と企業との交流機会の拡大に努めます。	産業観光課



笠松地域環境対策会議植樹

## 第3節 企業誘致の推進

### まちづくりの現状

- 宮若市では、これまで製造業などを中心とし、積極的に企業誘致を進めてきた結果、トヨタ自動車九州株式会社を中心とした自動車関連企業の立地が順調に進んできました。今後、県企業局が造成した磯光工業団地への優良企業の誘致が望まれています。
- 近年の国内外の度重なる自然災害や、長引く経済低迷、さらには円高の定着による企業の設備投資の海外シフトが進む中、企業誘致が進んでいない状況です。
- 市民意識調査では、今後、重点的に取り組むべきテーマとして「企業誘致」が高くなっています。

### 前期基本計画における成果・課題

#### 工業立地基盤の整備

- ☺ 安定的な財政基盤の確立、雇用の場の創出などを図るため、県企業局により磯光工業団地の造成が完了しました。

#### 固定資産税の減免などによる企業誘致の推進

- ☹ 前期において誘致実績がないことから、整備済みである優遇税制・奨励金制度や磯光工業団地の立地条件の優位性を一層PRしていく必要があります。

### 後期基本計画における主要な課題

#### 課題1

新たな企業立地を促進する有効な誘致策が必要です。

企業誘致に対する地域間競争が激化する中、企業誘致の実績を上げることができなかった前期での課題を検証し、より効果的に誘致活動を展開していくことが必要です。

### 基本方針

- ◎ 市経済への波及効果や雇用吸収力の高い企業の立地を促進するため、積極的な誘致活動を展開し、優良企業の誘致と立地支援を図ります。

### 後期基本計画での主要事業

#### 課題1

#### 事業1

#### 企業誘致活動の推進

事業名	事業の内容	担当課
◎重点 ①優遇措置等の活用	これまでの固定資産税の減免措置や誘致奨励金などの優遇措置と合わせて更なる優遇措置の拡充を検討し、誘致活動に努めます。	総合政策課
◎重点 ②情報発信・誘致活動の強化	県などの関係機関との連携を密にし、情報収集、情報発信を強化するとともに、特に磯光工業団地については、九州自動車道インターチェンジとの近接性及び上水道や工業用水、下水道、高速インターネットサービスなどのインフラ面での優位性を前面に、トップセールスを始めとする積極的な誘致活動を展開します。	総合政策課

### 目標指標（成果指標／活動指標）

No.	目標指標	現状値	目標値	担当課
1	誘致企業の総数	平成23年度 36社	平成29年度 43社	総合政策課

## 第4節 商業の振興

### まちづくりの現状

- ライフスタイルの変化や経済のグローバル化\*の浸透、高度情報化の進展など、商業を取り巻く経済環境は急速に変化しています。こうした変化に適応した活力ある商業活動を推進するために、商業の近代化、合理化を図ることが必要です。
- 宮若市の小売業の商品販売額は微増していますが、郊外型の商業施設の進出などによる商圏の分散化によって、商店数は減少しています。

### 前期基本計画における成果・課題

#### 経営基盤の強化

- ☺ 商工会議所や商工会などの関係機関と連携し、経営の安定化や販路拡大、金融支援に努めました。
- ☺ 経済団体や関係機関の各種研修会や経営相談を通して、経営基盤を強化し、意識の向上、経営の改善策を推進しています。

#### 商業活動の促進

- ☺ 追い出し猫を生かした各種イベントや商店街活性化策など、地域のコミュニティと一体となって商業活動の促進に努めました。
- ☹ 農商工連携による特産品については、生産体制や販路開拓などの確立が課題となります。

### 後期基本計画における主要な課題

#### 課題1

市民生活に密着した商業の活性化と地元商業の経営基盤の強化が必要です。

高齢化が進む中、高齢者などの身近な生活を支える商業の役割は重要となっており、商店などの賑わいや地域交流の場としての活力を再生するためにも、観光や農商工、地域コミュニティなどと連携した新たな商業活動の創出、市民の暮らしと密着した魅力ある商店などの形成が必要です。また、関係機関と連携した経営支援が必要です。

### 基本方針

- ◎魅力的な特産品の開発や観光との連携により、多くの人々が集う商店などの形成のため、まちづくりと一体となった商業の振興を目指します。

### 後期基本計画での主要事業

#### 課題1

#### 事業1

#### 商業活動の活性化と経営基盤の強化

事業名	事業の内容	担当課
①特産品の開発・販路開拓の推進	農商工の連携による特産品の開発から生産、販売に向けた体制づくりを支援します。	産業観光課 農政課
②観光と連携したイベント・PR活動による集客力の向上	追い出し猫などを生かしたイベントや市内の観光資源を結ぶ“とれ旅”ツアー*を地域コミュニティなどと一体となって行い、商店などへの集客力向上に努めます。	産業観光課
③中小事業者に対する経営支援	商工会議所や商工会、関係機関と連携し、補助事業などの活用、研修や相談業務の充実により、経営の安定化を支援します。	産業観光課

## 第5節 観光の振興

### まちづくりの現状

- 宮若市は、豊かな自然環境や農産物、竹原古墳などの歴史文化資源、脇田温泉など、観光資源に恵まれており、各種祭り、追い出し猫を活用したイベントなどを通じた交流活動が展開されています。また、市内の自動車産業への工場見学などの産業観光も盛んになっています。
- 宮若市の観光入込客は、約109万人（平成22年福岡県観光入込客推計調査）となっています。利用者の多い主な施設は、ドリームホープ若宮（約32万人）、グランティア若宮（約7万人）、スコレ若宮（約7万人）となっています。

#### 宮若市の主な観光資源

- 歴史文化資源**：竹原古墳／損ヶ熊古墳／霊験寺（釘抜地藏尊）／若宮八幡宮（三十六歌仙絵）／清水寺／羅漢岩窟（十六羅漢）／乙野野舞台／宮永野舞台／猫塚公園（追い出し猫）／石炭記念館／木造如来形坐像 等
- 農業・商業資源**：ドリームホープ若宮／四季菜館／ぶどう狩り 等
- その他の観光資源**：脇田温泉／いこいの里千石／トヨタ自動車九州株式会社（工場見学・産業観光）／まちの駅（観光情報・体験観光）／俳句の道／陶芸／ゴルフ場 等
- イベント**：トヨタ九州スプリングフェスタ（4月）／霊験寺の大祭（4月・11月）／宮若ほたる祭（6月）／宮若市納涼花火大会（7月）／春日神社祇園山笠（7月）／宮永踊り（9月）／平八月まつり（9月）／宮若ふるさと祭（10月）／若宮八幡宮放生会大祭（10月）／日本一の大門松祭（12月）／みやわかニャンニャンまつり（2月） 等

### 前期基本計画における成果・課題

#### 観光推進計画の策定と観光PRの推進

- ☺平成21年度、市民のおもてなしの心と豊かな発想で創る観光まちづくりを目指して、観光推進基本計画を策定しました。
- ☺観光ボランティアの育成については、宮若市観光がいの会が20人で結成され、JR九州ウォーキングやほたる観賞、たけのこ掘り、ニャンニャンまつりなどのツアーで来訪者におもてなしのガイドを実施しています。
- ☺筑豊地域観光協議会や県観光推進協議会など関係機関などと連携して、テーマ別広域観光モデルコースを設定し、モニターツアーを実施しています。
- ☺観光情報の発信として、観光案内パンフレット「みやわかり本」の改訂や「とれ旅マップ」を作成し、マスコミへの情報発信、ホームページの充実に努めています。

#### 観光資源の整備

- ☹農業観光振興センター\*の整備については、基本方針策定のための基礎データを基に、宮若市の農業、観光の振興に効果的な施設整備について調査、研究を進めてきましたが、具体的な施設整備には至ってない状況です。

#### 農業を生かした観光産業の推進

- ☺平成20年度より「農商工連携事業\*」を通して、特産品開発や新商品の全国展開を行い、宮若ブランドの確立を推進しています。
- ☹グリーンツーリズム\*については、観光協会や関係団体と連携し、モニターツアーなどで試行的に実施しましたが、具体的な取組には至っていない状況です。

#### 各種イベント事業の推進

- ☺観光協会や関係団体と連携し、市の自然環境、歴史、文化などの観光資源を生かした各種イベントや観光事業を進めています。

## 後期基本計画における主要な課題

## 課題1

宮若市のイメージづくりと観光PRの強化が必要です。

宮若市は観光地としての認知度がまだ低く、交流拡大を図る上では観光イメージの醸成と観光情報の効果的なPRが必要です。

## 課題2

農商工と連携した観光振興が必要です。

地域の農業や商工業などの産業を生かして、交流人口\*の増加を図り、観光の活性化を図ることが必要です。

## 課題3

市内滞在時間を増やすためのネットワークづくりが必要です。

市内の観光拠点を周遊する環境づくりなど、観光客をつなぐ仕組みづくりや集客力のある観光資源をもつ周辺自治体との広域的な連携による観光客の導線づくりが必要です。

## 基本方針

◎宮若市のイメージづくりと観光資源を活用した観光まちづくりを目指します。

## 後期基本計画での主要事業

## 課題1

## 事業1

## 観光の魅力発信

事業名	事業の内容	担当課
◎重点 ①イメージづくりと情報発信	宮若市の魅力を積極的にPRし、集客力を高めるため、宮若市のイメージづくりとICT*やマスメディアなどを有効に活用した効果的な情報発信を進めます。	産業観光課
②おもてなしの向上	観光を推進する団体などと連携し、担い手やボランティアガイドなど「もてなし人材」の育成を進め、観光客に対するおもてなしの向上を図ります。	産業観光課
◎重点 ③観光施設・イベント等の魅力向上	既存観光施設、イベントなどの魅力向上、地域の観光資源の掘り起こしを進めながら、観光としての魅力をさらに高め、「訪れてみたいまち」づくりに努めます。	産業観光課
④交流イベントの推進	西鞍の丘総合運動公園や光陵グリーンパークなどの公園施設を生かした、新たな観光交流イベントを推進します。	産業観光課

## 課題2

## 事業2

## 農商工と連携した観光の活性化

事業名	事業の内容	担当課
①農業との連携	農産物を生かした特産品開発や販路開拓を推進し、農業イベント、農業体験などを行うことで、観光の推進と産業活性化に努めます。	産業観光課 農政課
②商工業との連携	観光客の誘客につながる追い出し猫などの特産品開発や、工場見学の来場者などが市内の飲食店などへ回遊する仕掛けづくりに努め、交流人口の相乗効果を高めていきます。	産業観光課

## 課題3

## 事業3

## 市内の周遊観光の推進、広域的な観光連携

事業名	事業の内容	担当課
①市内の周遊観光の推進	観光客を市内の様々な観光資源へと誘導するため、観光マップの活用や観光客の目的に合った新たな観光ルートの開発に努めます。	産業観光課
②広域的な観光連携の推進	周辺自治体と連携した広域的な観光ルートの確立に努めます。	産業観光課 総合政策課

目標指標（成果指標／活動指標）

No.	目標指標	現状値	目標値	担当課
1	年間観光入込客数 (福岡県観光入込客推計調査)	平成22年度 109万人	平成29年度 116万人	産業観光課

計画事業

No.	事業名	着手年度	達成年度	担当課
1	新たな観光ルートの確立 (観光資源の整備を含む)	平成25年度	平成29年度	産業観光課



観光がいどの会



宮若ほたる祭



JR九州ウォーキング



みやわかニャンニャンまつり



日本一の大門松祭



ちよっくらふれ旅（直轄広域連携事業）